



高尾山のいきものたち

ルリタテハ

(タテハチョウ科)



^{はね}翅を開くと爽やかな瑠璃色の帯が目を引く。森林や公園などで見かける中型の蝶で、翅の表面はピロードのような光沢の紺色に青色の帯模様が入る。裏面は灰褐色で樹皮や落ち葉に似て保護色になっている。

成虫は、東京付近で6、8、10月頃と年3回発生し、秋の成虫が越冬し早春に飛び始める。少ない時期もあるが3～11月に成虫を見ることができる。よくクヌギなどの樹液や腐った果実の水分を吸いにくる。オスは縄張り意識があり、見晴しのいい葉や石の上などに止まり、他の蝶がくると攻撃して追い払う。幼虫の食草は、サルトリイバラ、ホトトギス類、ユリ類など。早春から秋まで、山の中から公園まで、植物の恵みで力強く生きている蝶だ。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)

驚き桃の木！ 高尾の記

NO.1



森を舞う大量の紙吹雪??

昼休みにケーブルカー駅の少し先を散歩していると、何やら紙吹雪のようなものが大量に頭上をヒラヒラと舞っているではありませんか。よくよく見ると全身真っ白なチョウチョです。半端な数ではありません。

正体は、数年前から大発生している「キアシドクガ」という蛾だそうです。幼虫がミズキの木を丸坊主にしてしまうほどです。大量に舞う光景はそれなりに美しいと思ったのですが、実は困りものだったのですね！ちなみに漢字で書けば「黄脚毒蛾」ですが毒はないそうです。かわいそうな名前。

当センター勤務一年生が「これはびっくり！」と感じた高尾の旬の情景を不定期でお伝えします。(枝)



白い点に見えるのがキアシドクガです。



雌♀はすべての脚が黄色(左)なのに対し、雄♂は前脚のみ黄色(右)。

展示室のみ開館します

6月10日（水）より、当センター1階の展示室を開館します。（土日祝日は休館となります。）

開館時間 午前10:00～12:00

（受付10:00～11:30）

午後13:00～16:00

（受付13:00～15:30）

本来であればクラフト体験も開始したいところですが、木の実や工具等を不特定多数の方がお手にとるため新型コロナウイルス感染の恐れが考えられます。感染症対策のため**当面の間展示物の展示のみとし、クラフト体験はお休みとさせていただきます。**

入館にあたってのお願い

- 入館前の手洗い
- マスク着用（幼児を除く）
- 受付票の記載

なお、発熱、咳などの体調がすぐれない方は入館ご遠慮ください。



展示物にはカバーを掛けています



ホシザキイナモリソウ



サルナシ



ホタルブクロ

前号に引き続き、この季節に見ることができる花を紹介します。

編集後記

花だけでなく、モミジイチゴやクサイチゴ、ヤマグワ、ヒメコウゾなどの木の実も目につくようになりました。

モミジイチゴの実



Forest通信 No.376

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

